

令和 7 年 1 月 20 日

獣医学研究院

滝口 満喜 研究院長

北海道大学獣医学部
学内 Quality Assurance 委員会

共同獣医学課程の教育改善に関する提言

令和 6 年度第 2 回 Quality Assurance 委員会（1 月 20 日開催）におきまして、共同獣医学課程の教育改善について検討いたしました。以下に記載した当委員会からの改善案についてご検討いただき、ご回答いただきたくよろしくお願い申し上げます。

1. 多くの教員にとって、研究・教育環境が期待から大きく乖離していることについて引き続き改善案を検討すべきである。

2024 年 3 月開催の合同 FD 研修会において、多くの教員が研究重視の教育を期待しており、現状と大きな乖離が存在することが示された。その後に一部が対応されたものの、更なる改善について継続的な取り組みを行うべきである。

2. 共同獣医学課程の最新の strategic plan をすべての構成員により共有すべきである。

SER2019 に Strategic Plans (2016-2021)が記載されているが、その後について不明であるため、最新のものを共有すべきである。

3. 共同獣医学課程教育懇談会を定期的に開催して教育改善に活かすべきである。

共同獣医学課程教育懇談会要項には「年 2 回の定例懇談会を開催する」と記載されているが、2024 年度の開催について不明である。

4. 次回の EAEVE FV に向けたロードマップをすべての構成員により共有してスムーズに準備を進めるべきである。

EAEVE FV に多くの教職員や学生が関わると思われるものの、FV へのロードマップや準備状況の情報共有が不十分と考えられるので、対応を検討すべきである。

5. 同窓会活動の継続的な支援について、具体的な活動計画を共有して協働すべきである。

同窓会活動について会計収支や学内役員等の負担、卒業生の帰属意識等が問題となっているが、引き続き獣医学部からの継続的な支援を検討して実行すべきである。

以上

令和7年1月22日

学内 QA 委員会委員長
森松 正美 先生

獣医学研究院長
滝口満喜

学部教育の質保証に係る継続的な取り組みにお礼申し上げます。この度は共同獣医学課程の教育改善についてご検討いただきありがとうございました。以下に対応についてご回答致します。

提言 1. 多くの教員にとって、研究・教育環境が期待から大きく乖離していることについて引き続き改善案を検討すべきである。

2024 年 3 月開催の合同 FD 研修会において、多くの教員が研究重視の教育を期待しており、現状と大きな乖離が存在することが示された。その後の一部が対応されたものの、更なる改善について継続的な取り組みを行うべきである。

＜回答＞

多くの教員が研究重視の教育を期待しており、研究時間の確保が課題であることは明らかなです。これらに加えて、基礎・臨床・動物/公衆衛生 3 分野の教育のバランスや、社会情勢やステークホルダーのニーズを考慮することなどを意識して、新しいカリキュラムへの改訂を検討するよう教務委員会に指示し、近々教員アンケート結果をもとに WG での検討が開始されます。ポリクリに充てる時間が増えたことで卒論（課題研究）に費やす時間が減ったことが研究時間の確保を難しくしているとの意見が散見されるので、今後の EAEVE 認証への対応を真剣に議論し、新々カリキュラムの編成に活かしていただきたい旨、教務委員会に依頼いたします。また、研究室配属のさらなる前倒しを見据え、研究マインドの醸成を目的としたアドバンスト科目の早期履修について対応を指示し、実行しているところです。

共同獣医学課程における特に相互提供科目での教員の教育負担減に関しては、教員の移動や授業開催形式等について学習システム委員会でも検討を指示し、合同 FD での議論も踏まえて、後期後半から移動を伴わない授業の試行を実施しているところです。教員および学生の双方からの意見を踏まえて、今後の方針を決定していきたいと考えています。臨床教員の教育負担減については、引き続き多様な財源によるさらなる臨床教員の雇用の促進を検討いたします。

若手研究者の育成については、各研究室での研究活動の活性化が前提であり、科研費に代表される外部資金の獲得に励んでいただくとともに、大学院生の確保に向けてより一層の努力をお願い致します。研究院としては、人件費ポイントの有効活用により、教授が定年退職を迎える研究室を対象に助教の採用を順次行っているところです。

提言 2. 共同獣医学課程の最新の strategic plan をすべての構成員により共有すべきである。

SER2019 に Strategic Plans (2016-2021)が記載されているが、その後について不明であるため、最新のものを共有すべきである。

<回答>

2026年の2度目のEAEVE公式審査に向けてSERの作成に着手したところですので、Strategic Planの更新について議論し、研究院構成員に周知致します。

提言 3. 共同獣医学課程教育懇談会を定期的に開催して教育改善に活かすべきである。

共同獣医学課程教育懇談会要項には「年2回の定例懇談会を開催する」と記載されているが、2024年度の開催について不明である。

<回答>

今年度の開催担当が畜大であるため、その旨通知し、対応を依頼したところです。すでに2025年となり、結果的に2024年の本懇談会の開催は1回のみとなってしまいましたが、真に年2回の開催が妥当か議論し、年1回の開催に要項を変更することも検討致します。

提言 4. 次回の EAEVE FV に向けたロードマップをすべての構成員により共有してスムーズに準備を進めるべきである。

EAEVE FV に多くの教職員や学生が関わると思われるものの、FV へのロードマップや準備状況の情報共有が不十分と考えられるので、対応を検討すべきである。

<回答>

ご指摘の通りかと存じます。FV へのロードマップについては、畜大と協議の上、現状を踏まえて最新版を年度内に作成し、教職員に周知します。また、SER の作成を推進する意味で、国際認証推進委員会に SER 対応 ad-hoc チームの発足を指示しました。多くの教職員の協力をいただきながら着実に進めて参ります。

提言 5. 同窓会活動の継続的な支援について、具体的な活動計画を共有して協働すべきである。

同窓会活動について会計収支や学内役員等の負担、卒業生の帰属意識等が問題となっているが、引き続き獣医学部からの継続的な支援を検討して実行すべきである。

<回答>

承知しました。同窓会学内理事を中心に検討いたします。